

### 競争優位性を確保するため、幅広い研究開発活動を展開

豊田自動織機は、「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずる」という創業の精神に基づき、短期的な業績の拡大だけでなく、将来にわたる持続的成長を確実にするため、戦略的かつ全社的な研究開発活動を行っています。同時に、各事業部門においても将来の競争優位性を確保する重要な要素として、研究開発活動に積極的に取り組んでいます。

豊田自動織機の研究開発活動は、大きく分けて、各事業部門が独自に行う商品開発・改良と全社的な経営戦略の観点から研究開発センターが中心となって取り組む研究開発の2つからなります。

幅広い事業領域をもつ豊田自動織機は、事業部門ごとに中心となる技術領域・コア技術、市場特性などが異なります。そこで、お客様ニーズに合致した新商品開発を効率的に行うため、各事業部門に関わる商品改良、技術開発、応用研究は、事業部門に置かれている開発部署が中心となって取り組みを進める必要があります。各事業部門の開発部署では実験設備、研究設備などを充実し、商品開発計画に基づいて、製造部門などとの連携を深めながら積極的な活動を行っています。

一方、研究開発センターは、コーポレート・センター(本社)に属し、材料など各事業部門共通の基盤となる技術分野や、新分野に関する研究開発を行っています。それに加えて研究開発センターでは、全社の研究開発体制の強化・効率化を目的に、各事業部門の技術の横展開や新たな技術開発テーマの調査・検討などにも取り組んでおり、各事業部門に蓄積された技術やノウハウを活用して将来の事業の柱となる新商品やサービスの探索・創

造を継続的に推進しています。また、研究テーマによっては、トヨタグループの基礎研究機関である(株)豊田中央研究所、大学など外部研究機関とも連携して研究開発を進めています。

当社は、重要な加工・組立設備の内製化を積極的に進めています。メカトロシステム部では、コンプレッサー事業部、エンジン事業部、トヨタL&Fカンパニー、関連会社向けなどに専用生産設備を開発・製造しています。社内で製作することで、開発・設計部署と一体となってスピーディな開発・製造ができ、生産ラインの迅速な立ち上げにもつながります。当社の優れた生産設備は、当社グループのものづくりに貢献し、各事業の競争力の源泉となっており、生産ノウハウの社外流出防止にも寄与しています。また、設備づくりの強みを生かして、海外生産拠点の早期立ち上げや設備に強い人材育成にも力を入れて、当社グループの生産技術力の向上に貢献しています。

当期の研究開発費は、前期比6.4%増の367億円となりました。研究開発費のセグメント別内訳は、自動車部門が173億円、産業車両部門が165億円、繊維機械部門が9億円、その他部門が18億円でした。



フォークリフト評価実験



実車風洞試験



繊維機械開発試験